

山梨県大月市

献上地遺跡

KENJYOUTI SITE

一般国道20号（大月バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

大月市教育委員会

山梨県大月市

獻上地遺跡

KENJYOUTI SITE

一般国道20号（大月バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

大月市教育委員会

序

本書は、建設省と山梨県による大月バイパス建設事業に伴い発掘調査が実施された献上地遺跡の調査成果をまとめたものです。

本遺跡の所在する山梨県大月市大月は、古くから遺跡が多く分布している地域であることが知られております。特にこれらの遺跡のうちでも大月遺跡は、縄文時代の敷石住居が多数発見されており、県内有数の遺跡であります。

献上地遺跡は大月遺跡の南東側に位置し、今回の発掘調査において古墳時代後期～奈良・平安時代の土器が多数発見されました。住居等が確認されなかったため、居住以外の用途を持った区域であったことが想定されますが、いずれにしても、近接する大月遺跡との関連が想定されます。

今回の発掘調査において明らかになったことは、大月市が持つ歴史のごく一部に過ぎません。しかしながら、こうした発掘調査成果の積み重ねによって大月市の歴史が明らかになると考えます。本書が大月市の歴史を解き明かすことに貢献できれば幸いです。

最後に、発掘調査および報告書作成にあたり、ご協力をいただいた関係者や関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 8 年 3 月 28 日

大月市教育委員会
教育長 野澤 覚

凡 例

- 本文中に頻繁に使われる組織名やその他の用語については重複をさけるため各用語の最初の部分で（以下、省略名）と断り省略している。
- 本書中には、発掘調査に関わる用語の記載が複数あるが、その使い分けは以下の通りである。

試掘調査：遺跡の有無を確認することを第一の目的とした発掘調査

試掘確認調査：周知の埋蔵文化財包蔵地内において、発掘調査の必要性や調査に必要な期間や経費等の積算基準となるデータを収集することを主眼とした発掘調査

本調査：調査対象地内の全面を掘削し、埋蔵文化財を調査・記録保存するために行う発掘調査

- 本書中に記載されている遺構名は、本調査時の名称を用いている。
- 掲載されている図版のスケール、方位、スクリーントーンの用例は必要に応じて図中に示した。
- 掲載した図面の縮尺は、原則として以下の通りである。

グリッド設定図：1/300

遺構図：1/60　ただし溝状遺構は1/300、溝状遺構断面図は1/120

遺物関連：1/3、ただし出土銭貨は1/1

- 遺構図に示した方位（N）および全体図に示した方位（N）は磁北である。
- 各章の参考文献は、それぞれの章末に記した。

例　言

1. 本書は山梨県大月市大月二丁目字献上地内に所在する献上地遺跡の発掘調査報告書である。
2. 書籍名は『献上地遺跡』であり、副題は「一般国道 20 号（大月バイパス）改築工事に伴う発掘調査報告書」である。
3. 「献上地遺跡」は、平成 6 年 2 月に大月市教育委員会が実施した試掘調査によって確認され、新たに埋蔵文化財包蔵地として登録された遺跡である。
4. 本書掲載内容は、献上地遺跡発見までの経緯と一般国道 20 号（大月バイパス）改築工事に伴い大月市教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
5. 調査及び報告書刊行までの作業は建設省からの委託を山梨県教育委員会が受け、大月市教育委員会が担当した。
6. 献上地遺跡に関わる発掘調査は、平成 6 年 2 月 7 日から平成 6 年 3 月 12 日の期間に試掘調査を実施し、本調査を平成 6 年 9 月 26 日から平成 6 年 12 月 26 日の期間で行った。
7. 本書に掲載した遺構・遺物・作業状況写真は、杉本正文・福田正人が撮影した。
8. 本書刊行までの作業は、平成 7 年 10 月 27 日から平成 8 年 3 月 28 日までの期間に大月市郷土資料館埋蔵文化財整理室内で行った。
9. 本書に掲載した遺跡空中写真は㈱東京航業研究所に委託した。
10. 調査に関わる写真・記録類・遺物は大月市教育委員会で保管している。
11. 本書の編集は大月市教育委員会杉本正文が行った。
12. 献上地遺跡の発掘調査・整理作業に関わる組織は下記のとおりである。

調査主体 大月市教育委員会

調査担当 杉本正文・福田正人

整理担当 杉本正文・福田正人

執筆担当 杉本正文

13. 本書刊行にあたり、次の組織や方々から指導・助言および協力を戴いた。記して謝意を表する次第である。（順不同・敬称略）

小野正文・出月洋文・山本茂樹（山梨県教育委員会）、平川 南（国立歴史民俗博物館）、
平野 修（帝京大学山梨文化財研究所）

挿図目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 | 3 |
| 第2図 グリッドの設定と調査区平面図 | 5 |
| 第3図 検出遺構（1～5号土坑） | 8 |
| 第4図 検出遺構（6～9号土坑、不明遺構） | 9 |
| 第5図 検出遺構（溝状遺構） | 10 |
| 第6図 検出遺構（溝状遺構 トレンチ断面） | 11 |
| 第7図 出土遺物（B-4、B-5 グリッド） | 12 |
| 第8図 出土遺物（B-5、C-2、C-3、C-4 グリッド） | 13 |
| 第9図 出土遺物（C-4、C-5 グリッド） | 14 |
| 第10図 出土遺物（C-5 グリッド） | 15 |
| 第11図 出土遺物（C-5、D-2 グリッド） | 16 |
| 第12図 出土遺物（D-3 グリッド） | 17 |
| 第13図 出土遺物（D-3 グリッド） | 18 |
| 第14図 出土遺物（D-3、D-4 グリッド） | 19 |
| 第15図 出土遺物（D-3、E-2、E-3 グリッド） | 20 |
| 第16図 出土遺物（E-3、F-2 グリッド） | 21 |
| 第17図 出土遺物（F-2 グリッド） | 22 |
| 第18図 出土遺物（F-2、F-3 グリッド、表探） | 23 |
| 第19図 出土遺物（銭貨） | 24 |

表目次

| | |
|-------------|----|
| 第1表 遺跡地名一覧 | 3 |
| 第2表 遺構データ一覧 | 26 |
| 第3表 遺物観察表 | 27 |

写真目次

| |
|----------------|
| 図版1 調査区全景 |
| 図版2 遺構写真 |
| 図版3 遺構写真 |
| 図版4 遺構写真 |
| 図版5 遺構写真 |
| 図版6 B グリッド出土遺物 |
| 図版7 C グリッド出土遺物 |
| 図版8 C グリッド出土遺物 |

目 次

序

例言

凡例

目次

第 1 章 調査の経緯と経過

| | |
|---------------------------|---|
| 第 1 節 調査に至る経緯 ······ | 1 |
| 第 2 節 調査までの協議と調査経過 ······ | 1 |
| 第 3 節 調査組織 ······ | 1 |

第 2 章 地理的環境と歴史的環境

| | |
|--------------------|---|
| 第 1 節 地理的環境 ······ | 2 |
| 第 2 節 歴史的環境 ······ | 2 |

第 3 章 調査の方法と基本層位

| | |
|--------------------|---|
| 第 1 節 調査の方法 ······ | 4 |
| 第 2 節 基本層位 ······ | 4 |

第 4 章 検出された遺構と遺物

| | |
|-----------------------|---|
| 第 1 節 土坑について ······ | 6 |
| 第 2 節 溝について ······ | 7 |
| 第 3 節 不明遺構について ······ | 7 |

第 5 章 まとめ

| | |
|-----------------------|----|
| 第 1 節 調査成果について ······ | 25 |
|-----------------------|----|

写真図録

- 図版 9 D グリッド出土遺物
- 図版 10 D グリッド出土遺物
- 図版 11 D グリッド出土遺物
- 図版 12 D・E グリッド出土遺物
- 図版 13 E・F グリッド出土遺物
- 図版 14 F グリッド出土遺物
- 図版 15 表採・特殊遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

一般国道20号(大月バイパス)は、慢性的に発生する大月市街地における渋滞の緩和を主とした目的として、建設省によって計画が進められてきた。

区間内ではトンネルや切り盛り上、高架橋などの建設が予定されているため、区間内をほぼ忠実に踏査および試掘調査を実施した。この結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である、御所遺跡、延命寺遺跡、大月遺跡のほかに、新たな埋蔵文化財包蔵地を発見するに至り、字名を付して「畠上地遺跡」とした。

第2節 調査までの協議と調査経過

以下に一連の経過を記す。

試掘調査

平成5年

11月12日 建設省より所在照会

11月22日 建設省へ試掘調査および調査成果に基づく協議が必要な旨を回答

平成6年

2月2日 周辺住民への試掘調査周知

2月7日 試掘調査開始

3月12日 試掘調査終了

3月24日 建設省へ試掘調査成果を報告

3月25日 山梨県教育委員会へ試掘調査終了報告を提出

発掘調査

平成6年

5月20日 建設省より法57条3通知

7月11日 建設省へ法57条3回答

9月16日 周辺住民へ発掘調査周知

9月26日 発掘調査開始
表土剥ぎ・遺構掘削・写真撮影・測量・空中測量

12月2日 業務委託契約返送

12月26日 発掘調査終了

平成7年

3月24日 委託業務清算書提出

3月24日 委託料請求

10月23日 整理事業受託依頼

10月27日 整理作業受託契約

平成8年

3月28日 委託料請求

『畠上地遺跡 一般国道20号(大月バイパス)改築工事に伴う発掘調査報告書』
刊行

第3節 調査組織

調査主体 大月市教育委員会

教育長 野澤 覚

教育次長 古澤 敏夫

生涯教育課長 佐々木 敬介

調査・整理担当者 杉本正文・福田正人

発掘調査作業員 加藤重利、宮野昭、藤本茂治、天野義二、細井亨、渡辺実、
高島英子、清水真寿美、清水光子、鈴木美智恵、西室春子、
高島はま子、柚木秋広、杉本義一、奥野イセ子、村松恭子、井上久子、
佐藤友紀、石井嘉俊、中山重雄、中山京子

整理作業員 奥野久代、佐藤友紀、中山京子、藤原佳子、佐々木栄子、井上久代

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

山梨県の東部地域である大月市は、県庁所在地の甲府市へは西に約56km、首都東京へは東に約84kmであり、国道20号をはじめ、中央高速自動車道、JR中央線が通過し、山梨県内でも東京方面へのアクセスが比較的容易な地域である。

歴上地遺跡は、大月市大月二丁目に所在し、笛子川・桂川の合流地点より南東側、標高370m前後の地点に位置している。南側には標高約643mの林宝山（菊花山）があり、西側は桂川により切り立った段丘崖になっており、桂川現水面高とはおよそ30mの比高差を持つ。北側および東側は平坦な段丘面がひろがっているため、現在同様生活の中心がおかれていたと推測できるが、江戸時代の浮世絵師安藤広重の「富士三十六景 甲斐 大月原」に見られるように、時期によっては荒廃地であったことも確認できる。これは南側にそびえる林宝山（菊花山）との密接な関係が考えられ、この地がたびたび土砂崩れの被害にあっていたことが推定できる。

第2節 歴史的環境

歴上地遺跡西側には、大月遺跡がある。大月遺跡はこれまでに5次に亘る発掘調査が実施されており、最初の調査は戦前にまで遡る。その後、さまざまな主体者によって各地点の調査が実施されてきたが、各地点ごとに発掘の契機が異なっており、また詳細な調査地点が不明なものもある。しかし、これまでの調査の成果から大月遺跡は、绳文時代中～後期および奈良・平安時代にかけて形成された集落跡であるということが確認されている。

また、歴上地遺跡発掘調査とほぼ並行する時期に山梨県埋蔵文化財センターによって実施されていた、県立都留高等学校体育館建設に伴う発掘調査においては、二条の溝状遺構、その溝に区画された内区に存在する平安時代の大型掘立柱建物群が発見されており（長沢・高橋 1995）、同時期の遺物が出土している歴上地遺跡の性格を考える上で重要な遺構であると言える。

このように、断片的ではあるが、これまでの大月遺跡の調査成果から、周辺の歴史環境が判明しつつある。歴上地遺跡の検山遺構および遺物の要素から直接的に集落ということを想定することはできないが、大月遺跡に近接しているということ、同時期の遺構・遺物が出土しているということからその関連性が推定される。大月遺跡を含め、本遺跡の位置づけは、今後周辺遺跡の調査成果を踏まえてさらに解明されていくであろう。

歴上地遺跡の位置および周辺の遺跡を示したものが第1図になる。

参考文献

長沢宏昌・高橋みゆき 1995『年報』11 山梨県埋蔵文化財センター



第3章 調査の方法と基本層位

第1節 調査の方法

1. 調査区の規模

調査区の規模は、南北約41m、東西約52mの約2,100 m²である。

2. 調査グリッドの設定

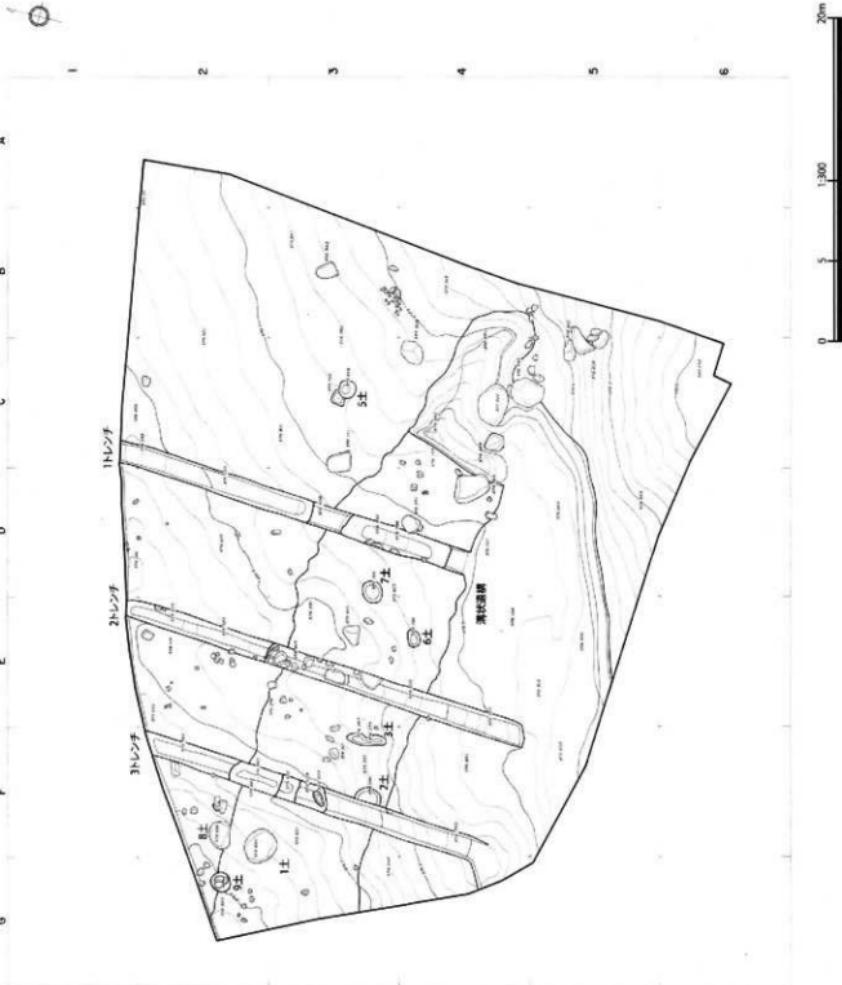
発掘調査の実施に際し、調査区を対象として8mグリッドを設定した。グリッドは東西方向を東からAからG、南北方向を1から6までの記号を付け、東西方向と南北方向が重なった地点を「B-2グリッド」というように呼称し、遺物を取り上げ時に出土位置の指標とした。

3. 表土層の除去と除去後の調査

試掘調査で得られたデータに基づき遺構確認面まで重機で掘り下げた。その後、遺構確認面を鋤簾により精査し、土坑、溝などの掘り込みを確認したのち掘り下げ、グリッドごとに出土遺物を取り上げ、遺構の実測を行った。そのほか記録写真は、一眼レフ（白黒・リバーサル）により適時撮影を行った。

第2節 基本層位

基本層位はとくに設定していない。また下層の堆積状況確認のための深堀は行っていない。しかし、溝状遺構の確認時に土層観察用にトレンチを設定し掘り下げを行い、断面図を作成しているので、参照されたい。なお調査区は南東から北西方向へと傾斜している。



第2図 グリッドの設定と調査区平面図

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 土坑について

調査によって検出された土坑は総計 11 基である。

1号土坑（遺構：第3図）

（遺構）調査区の最も西側に位置する。径 168cm × 155cm である。形状は円形を呈する。
（遺物）出土遺物なし

2号土坑（遺構：第3図）

（遺構）1号土坑の南東側に位置し、3号土坑の西側に位置する。径 165cm × 161cm である。
形状は円形を呈する。
（遺物）出土遺物なし

3号土坑（遺構：第3図）

（遺構）2号土坑の東側に位置する。新旧土坑の重複関係が認められたため、新しいものを
3号土坑 a、古いものを 3号土坑 b とする。3号土坑 a は、径 137cm × 134cm で、
形状は円形を呈する。3号土坑 b に先行する。3号土坑 b は径 135cm（推定）×
92cm で、形状は椭円形を呈する。3号土坑 a に切られている。

（遺物）出土遺物なし

4号土坑（遺構：第3図）

（遺構）調査区南側に位置する。残存状況が悪く半分より北側は残存していない。径
400cm（推定）である。

（遺物）出土遺物なし

5号土坑（遺構：第3図）

（遺構）調査区東側に位置する。径 106cm × 103cm である。形状は円形を呈し、断面形は
やや袋状を呈している。

（遺物）出土遺物なし

6号土坑（遺構：第4図）

（遺構）調査区のほぼ中央、7号土坑の南西側に位置する。新旧土坑の重複関係が認めら
れたため、新しいものを 6号土坑 a、古いものを 6号土坑 b とする。6号土坑 a は、
径 105cm × 75cm（推定）で、形状は長方形を呈する。6号土坑 b に先行する。6
号土坑 b は径 140cm × 133cm（推定）で、形状は円形を呈する。6号土坑 a に切
られている。

（遺物）出土遺物なし

7号土坑（遺構：第4図）

（遺構）調査区のほぼ中央、6号土坑の北東に位置する。径 154cm × 148cm である。形状
は円形を呈する。

（遺物）出土遺物なし

8号土坑（遺構：第4図）

（遺構）調査区の最も北側に位置する。2号土坑の北側、9号土坑の北東側に位置する。径
128cm × 126cm である。形状は円形を呈する。

（遺物）出土遺物なし

9号土坑（遺構：第4図）

（遺構）調査区西側に位置し、1号土坑の北側、8号土坑の南西側に位置する。径 119cm ×
112cm である。形状は円形を呈する。

（遺物）出土遺物なし

第2節 溝状遺構について

調査によって検出された溝状遺構は1条である。

溝状遺構（遺構：第5～6図、遺物：第7～18図）

（遺構）調査区の東南東から西北西方向へ伸びている。長さ5120cm、幅1110～860cmで、西北西方向へ向かうほど幅がひろくなる。

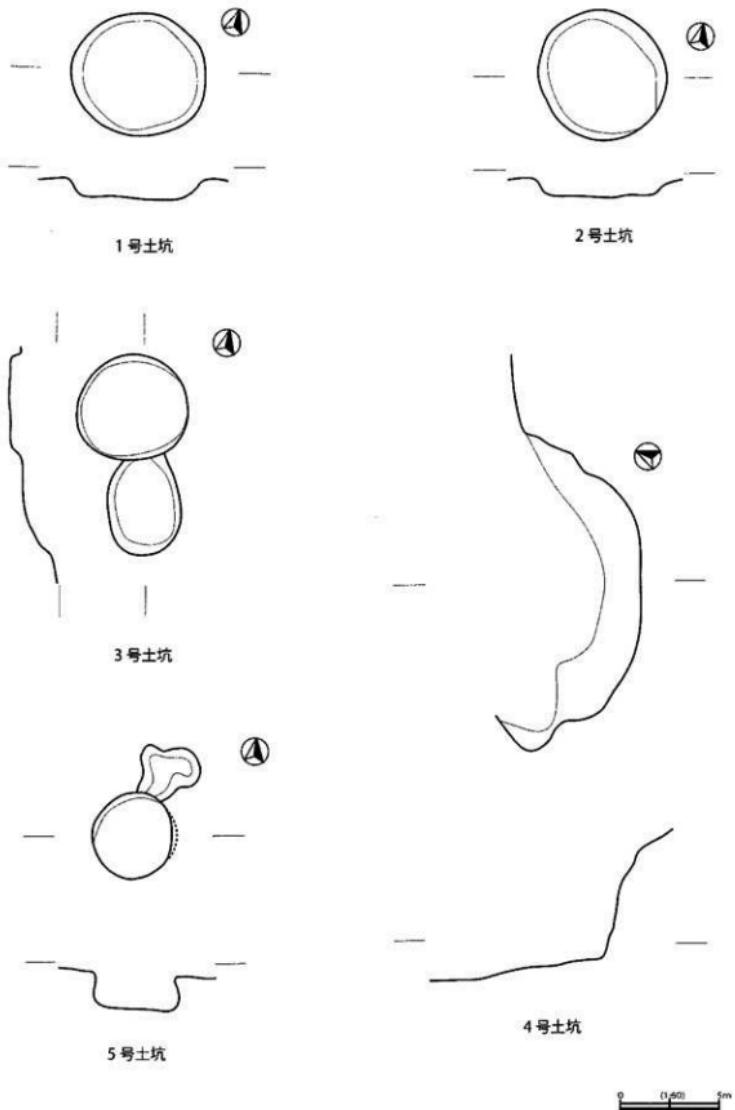
（遺物）溝内部から平安時代の土師器・須恵器を主体とする遺物が多量に出土した。

第3節 不明遺構について

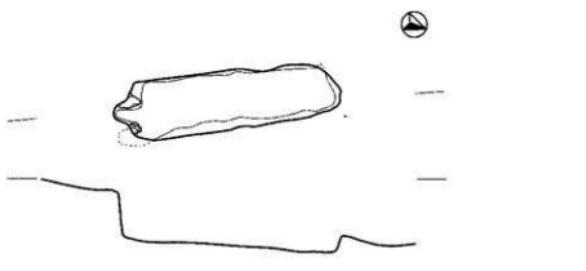
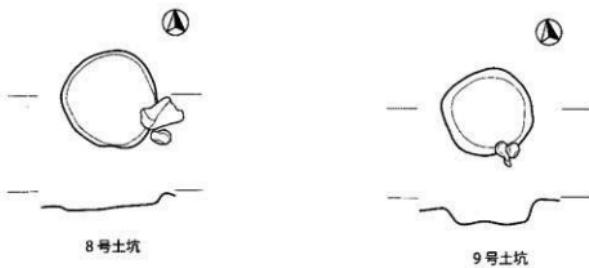
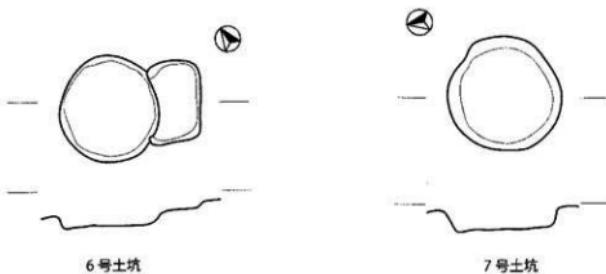
不明遺構は、調査区北東部にて確認した1基のみである。

不明遺構（遺構：第4図）

内部からトタン板などが出土しているため、近代の遺構であると考えられる。また焼土が検出されている。近隣住民によると、付近で戦前から戦後にかけて伝染病で亡くなった人を焼いたことがあるということだが、確定には至らなかった。

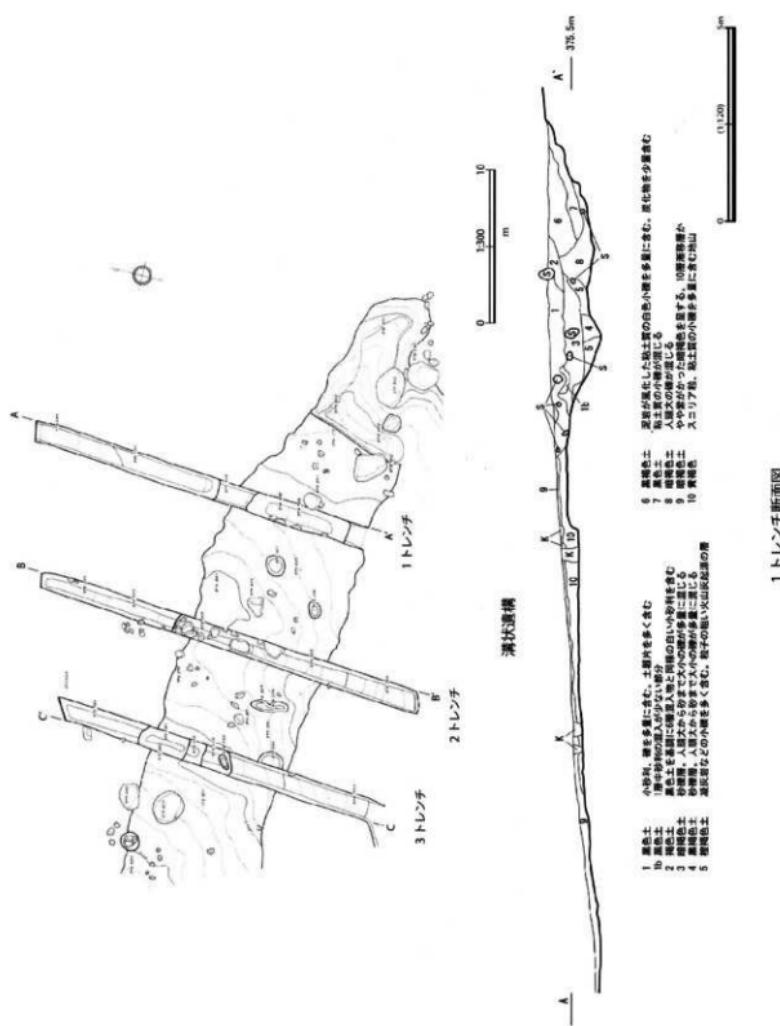


第3図 検出遺構（1～5号土坑）

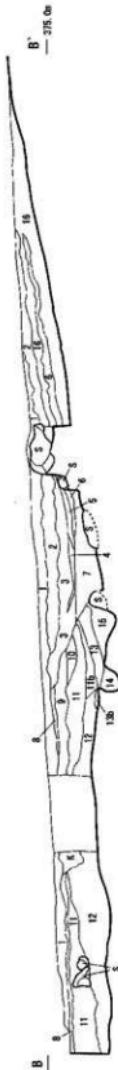


0 (160) 5m

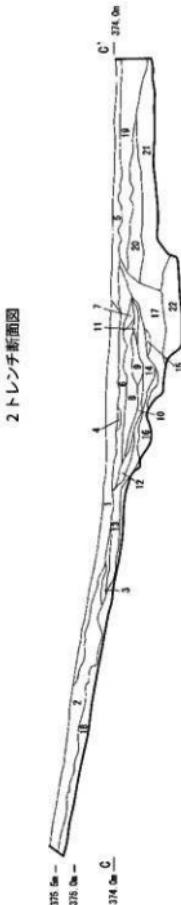
第4図 検出遺構（6～9号土坑、不明遺構）



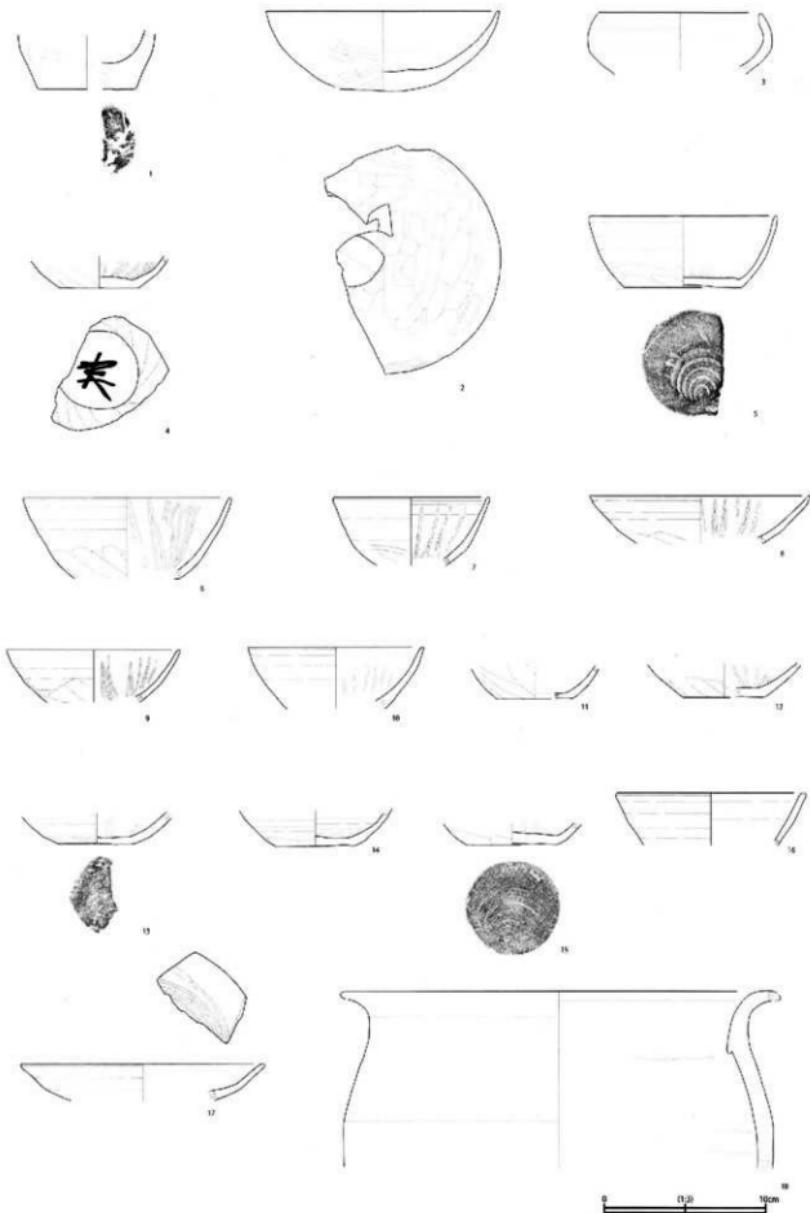
第5図 検出遺構（溝状遺構）



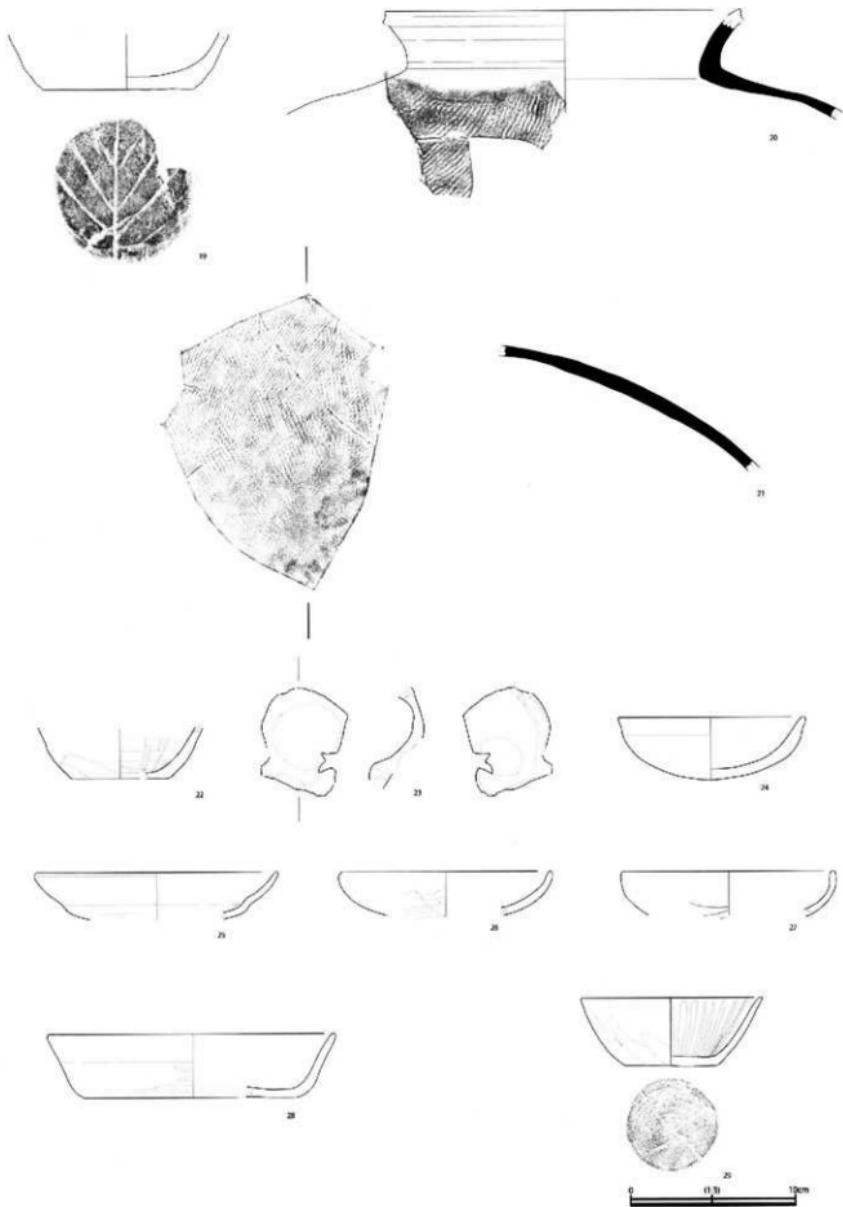
第6図 検出遺構（溝状遺構 トレンチ断面）



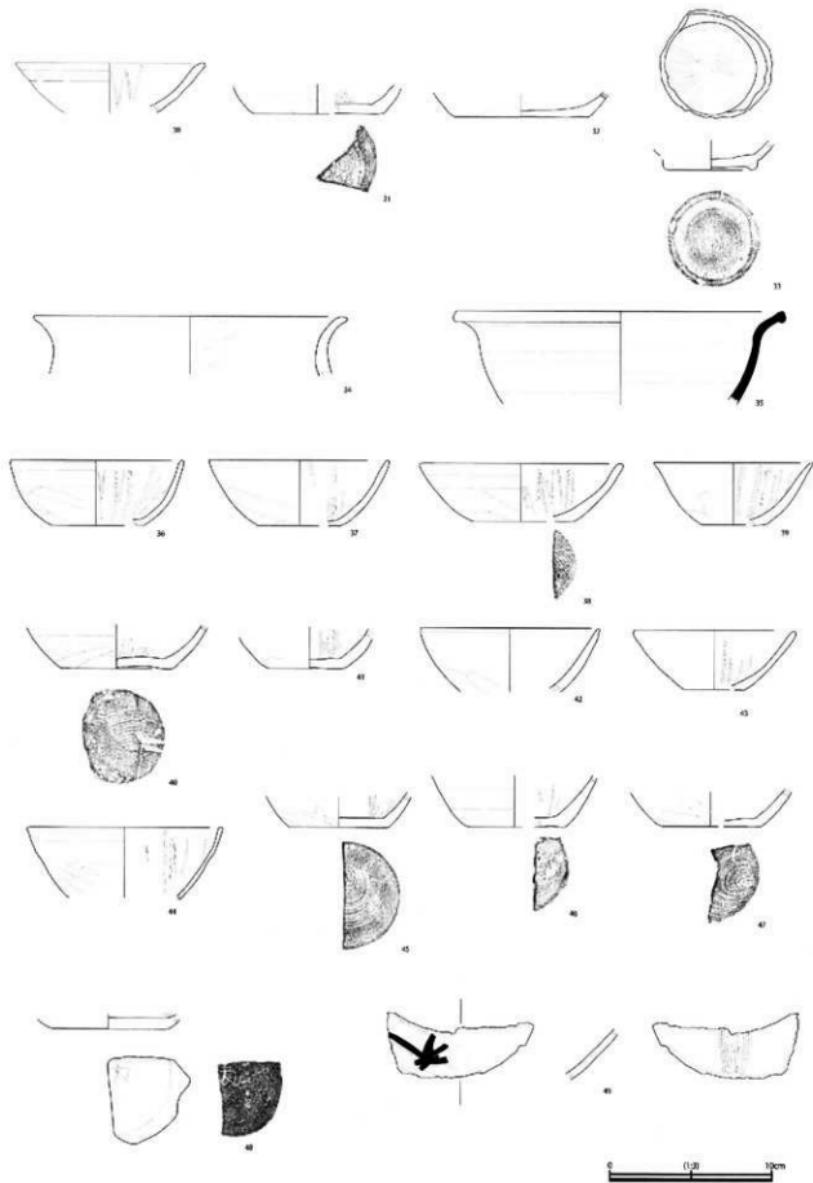
3 レンチ断面図



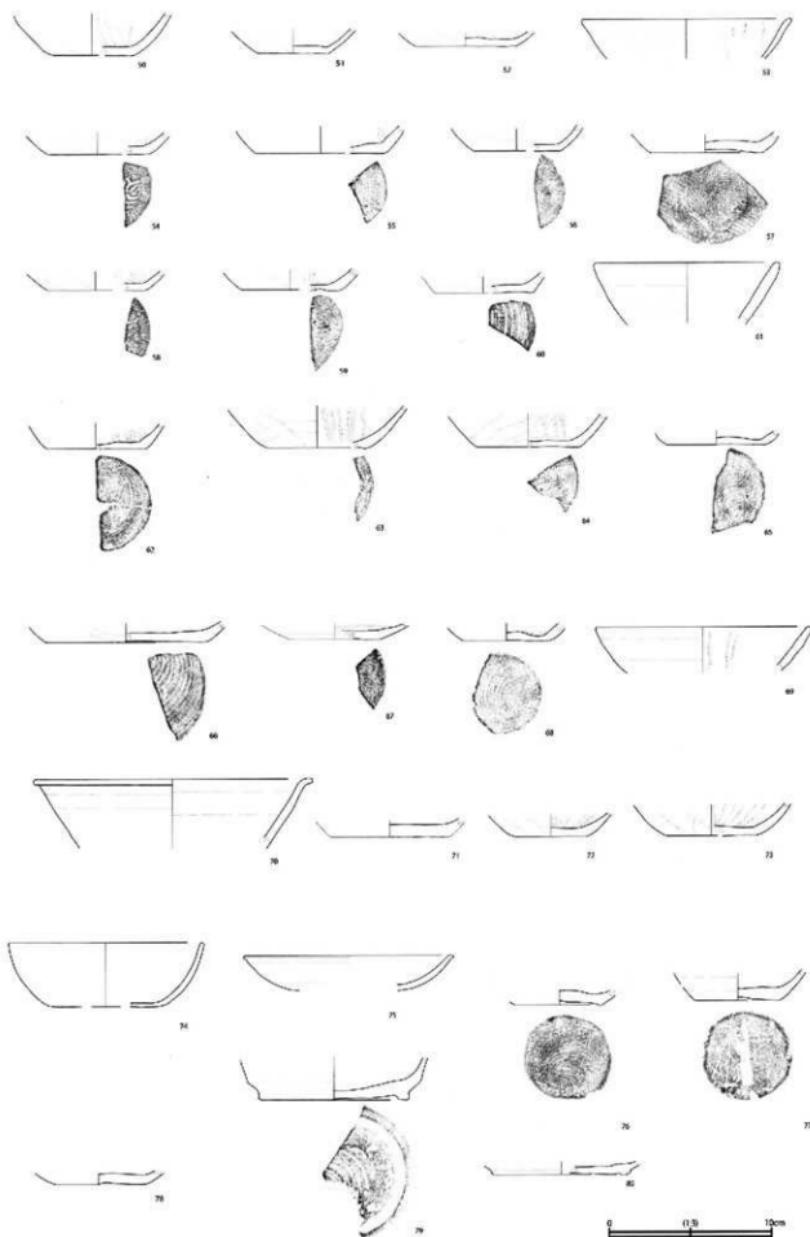
第7図 出土遺物 (1:B-4 グリッド、2~18:B-5 グリッド)



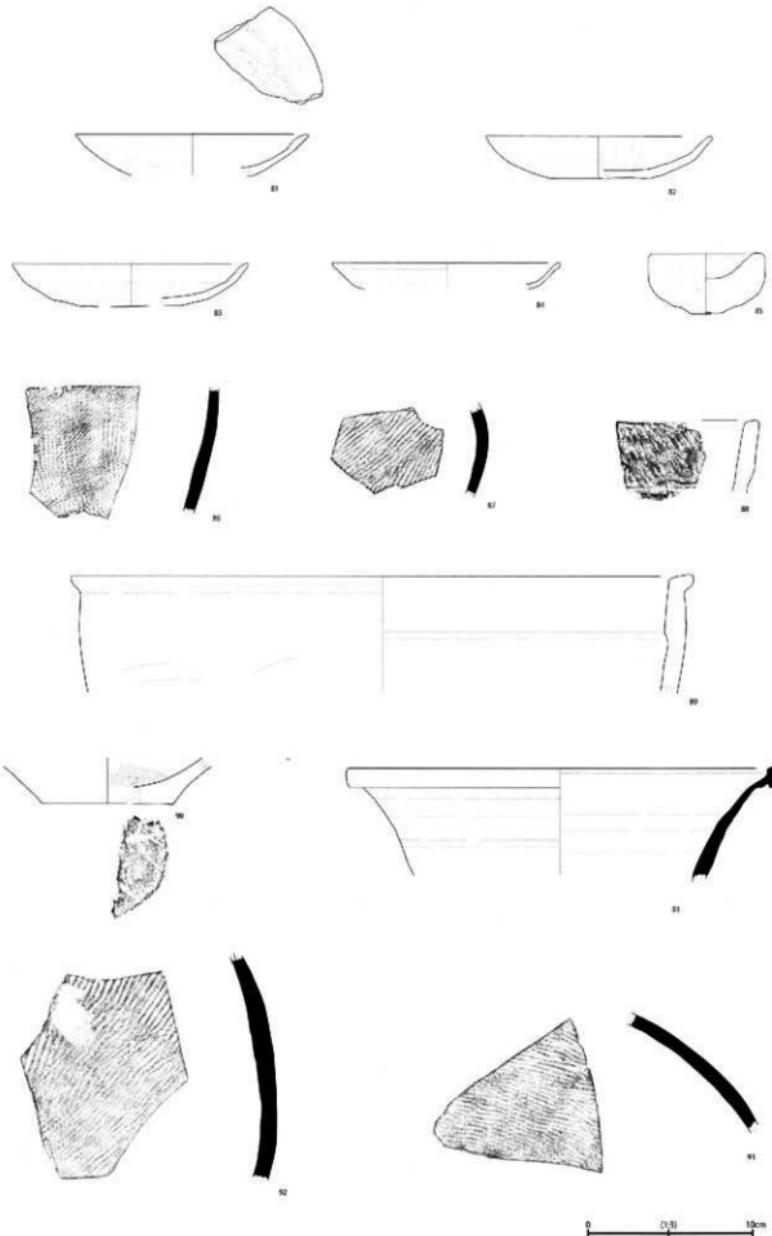
第8図 出土遺物 (19～21:B-5 グリッド、22:C-2 グリッド、
23:C-3 グリッド、24:C-4 グリッド)



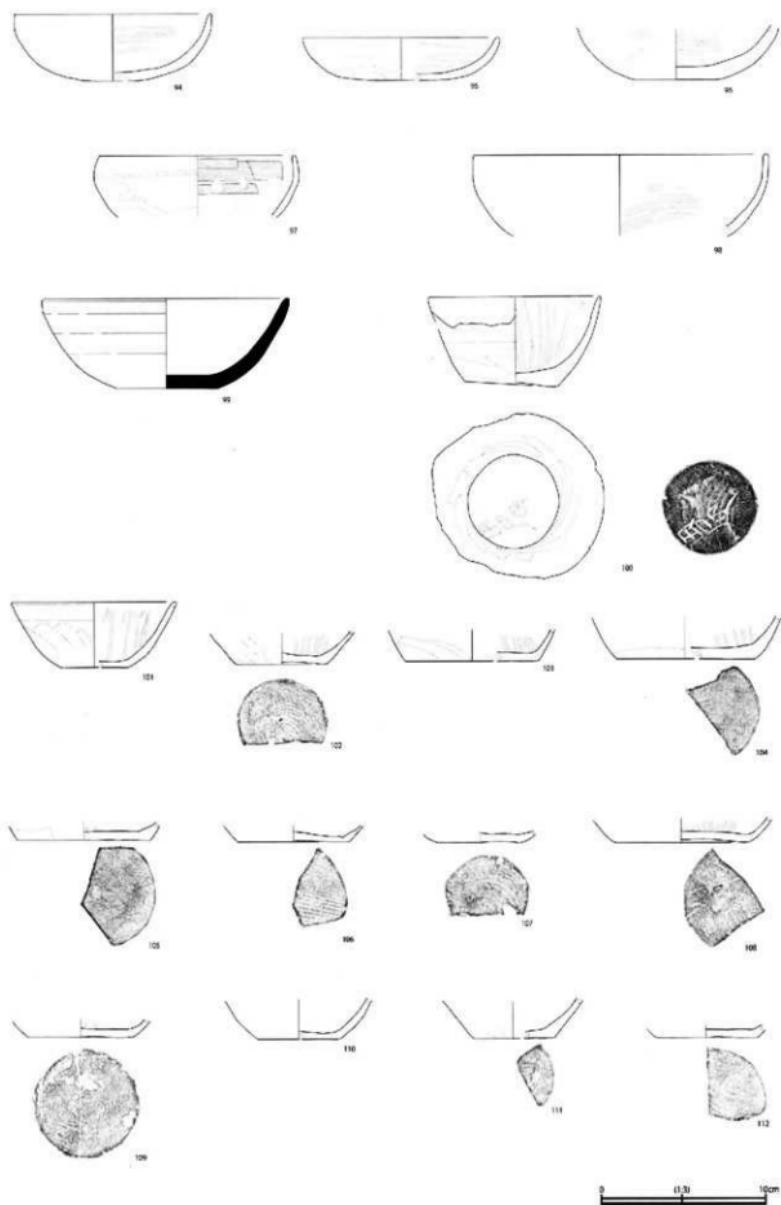
第9図 出土遺物 (30～35 : C-4 グリッド、36～49 : C-5 グリッド)



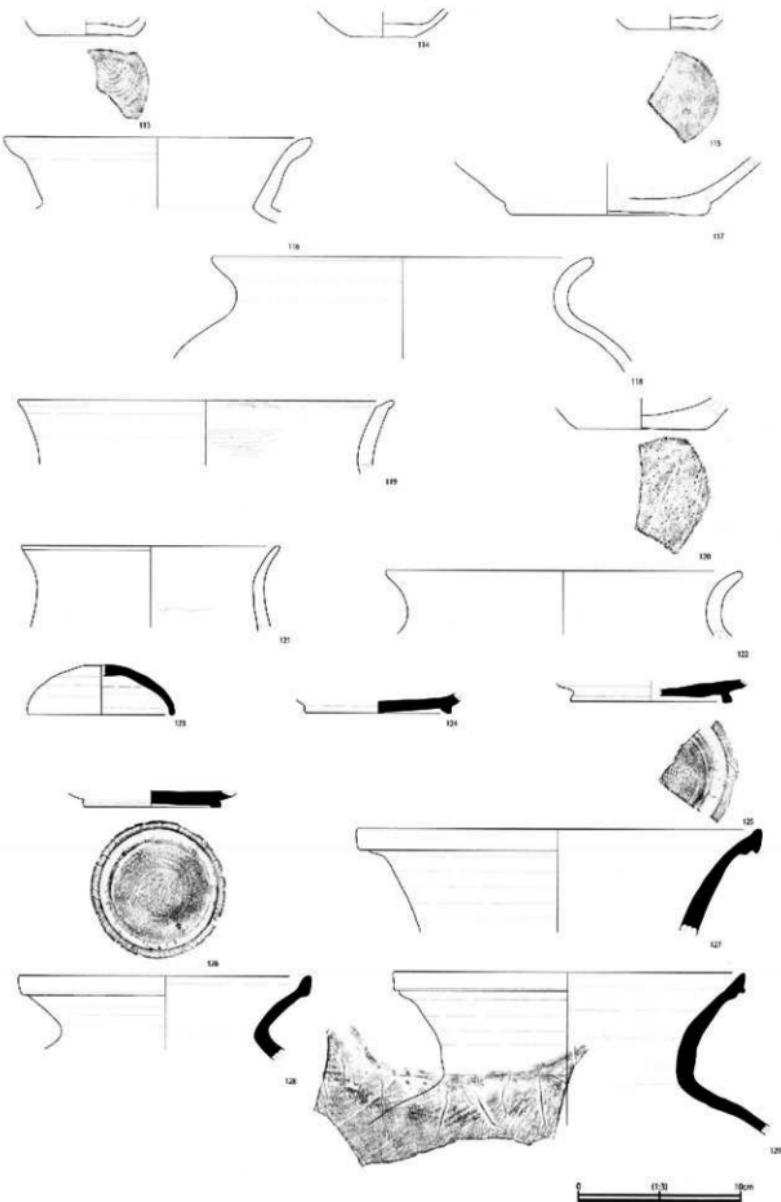
第10図 出土遺物 (50～80 : C-5 グリッド)



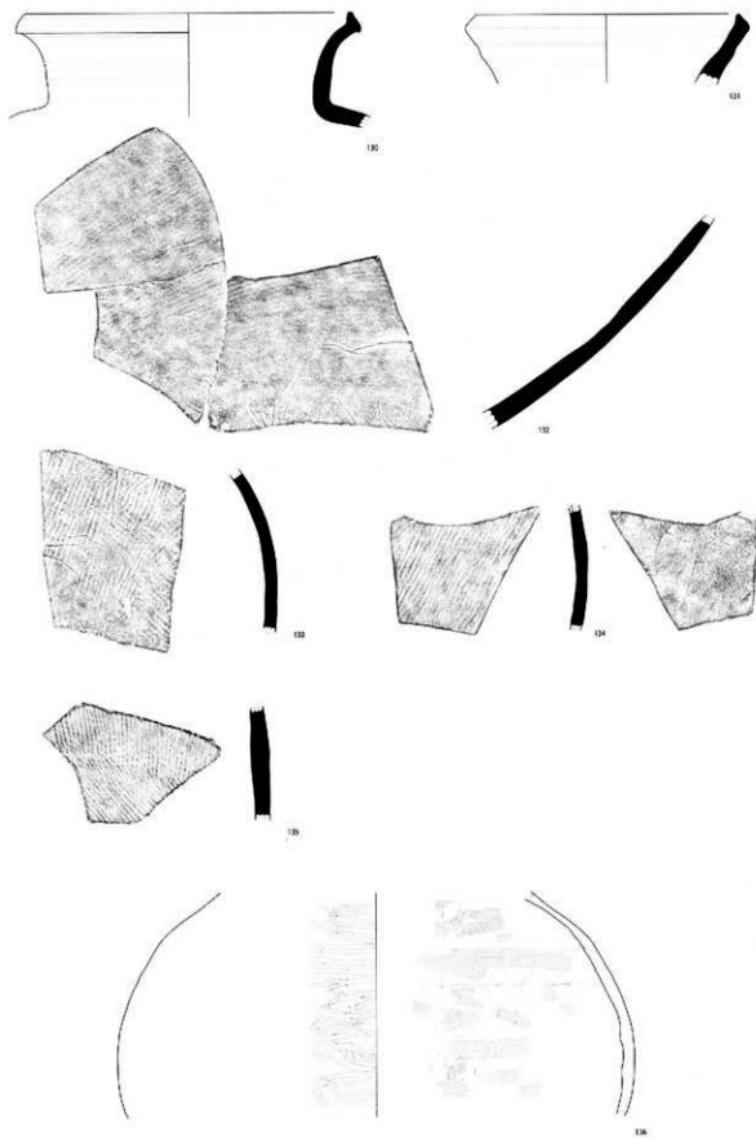
第11図 出土遺物 (81～88:C-5 グリッド、89～93:グリッド)



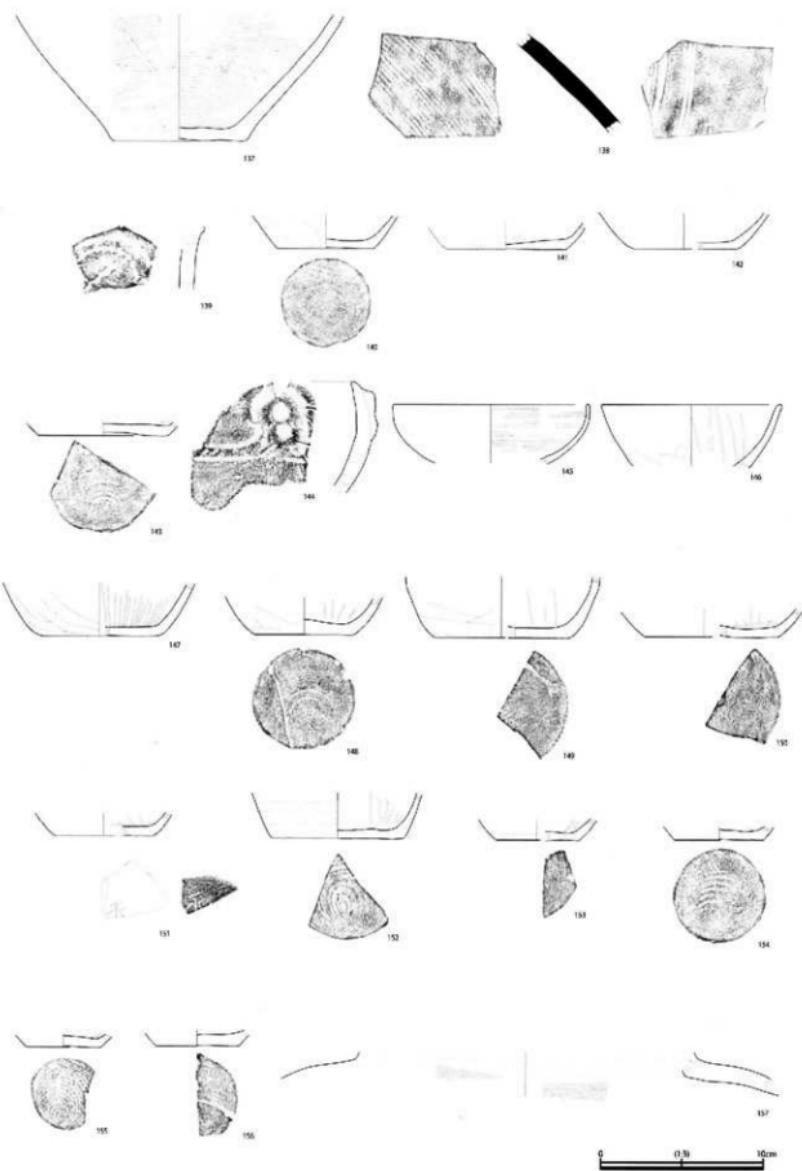
第12図 出土遺物 (94～112:D-3 グリッド)



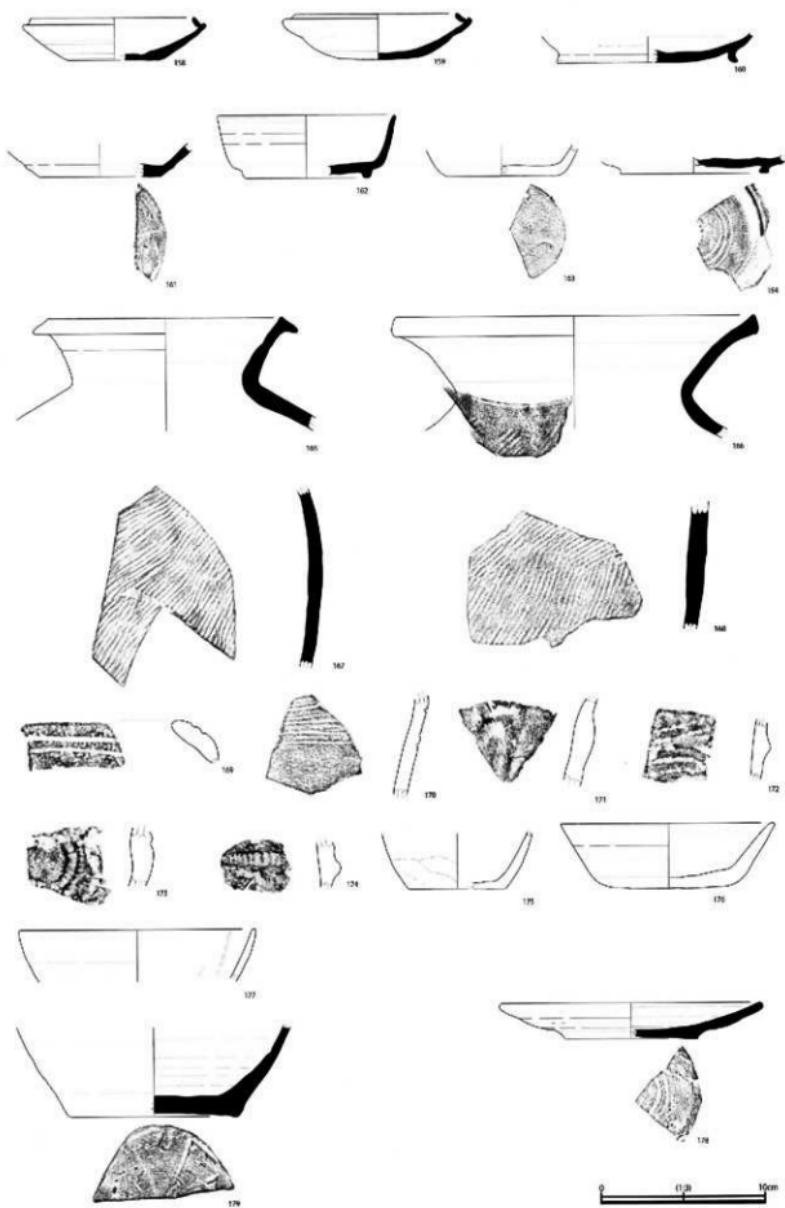
第13図 出土遺物 (113～129 : D-3 グリッド)



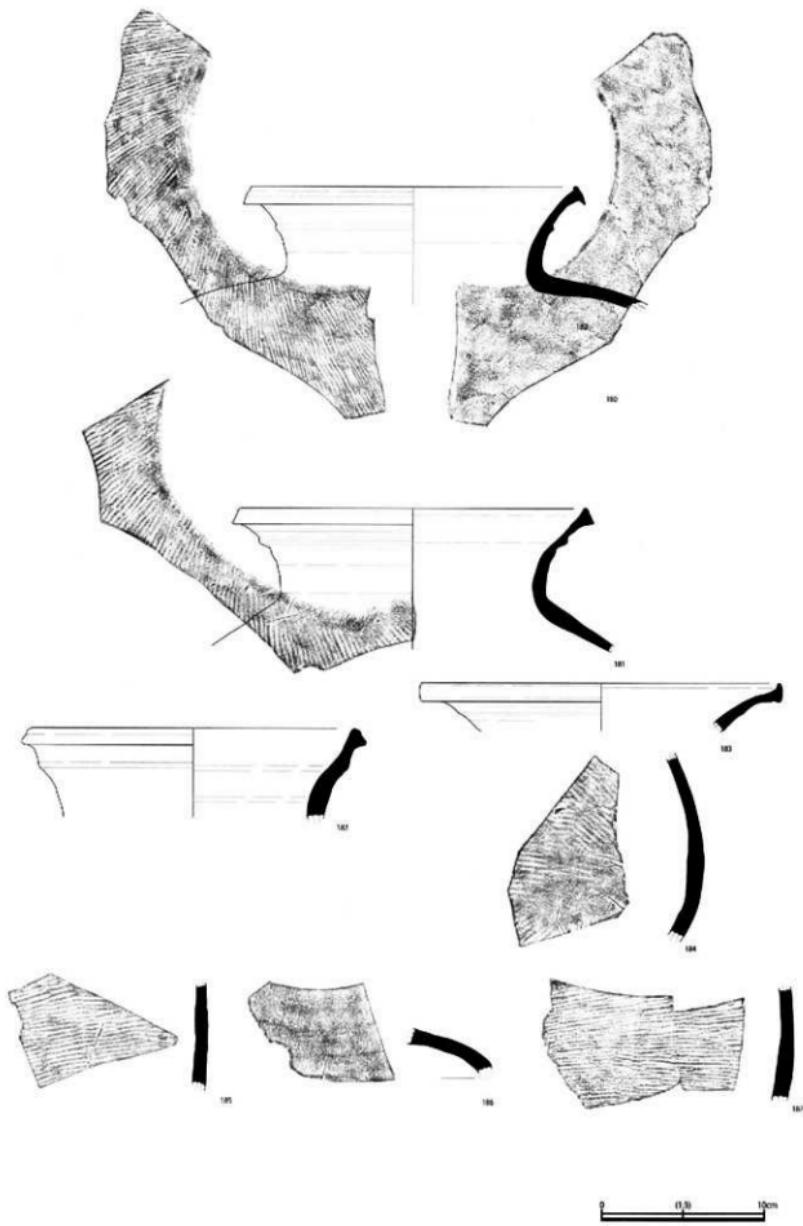
第14図 出土遺物 (130～135:D-3 グリッド、136:D-4 グリッド)



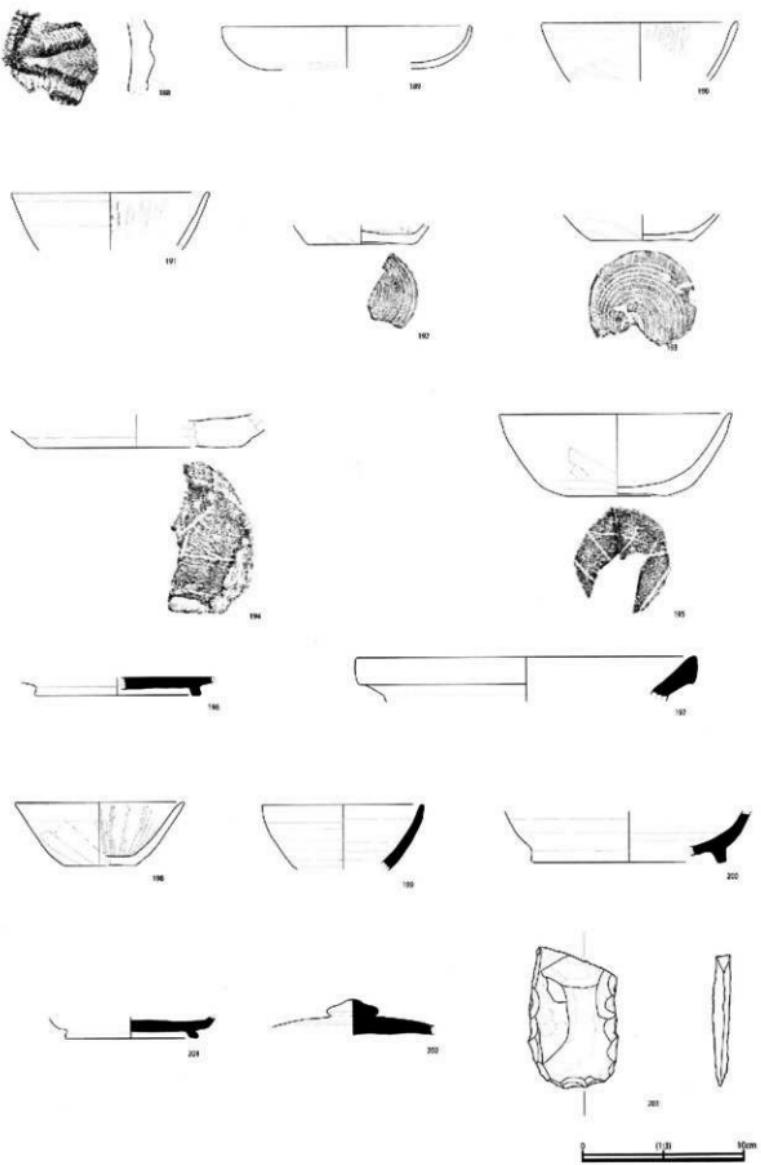
第15図 出土遺物 (137～139:D-3 グリッド、140～144:E-2 グリッド、
145～157 グリッド)



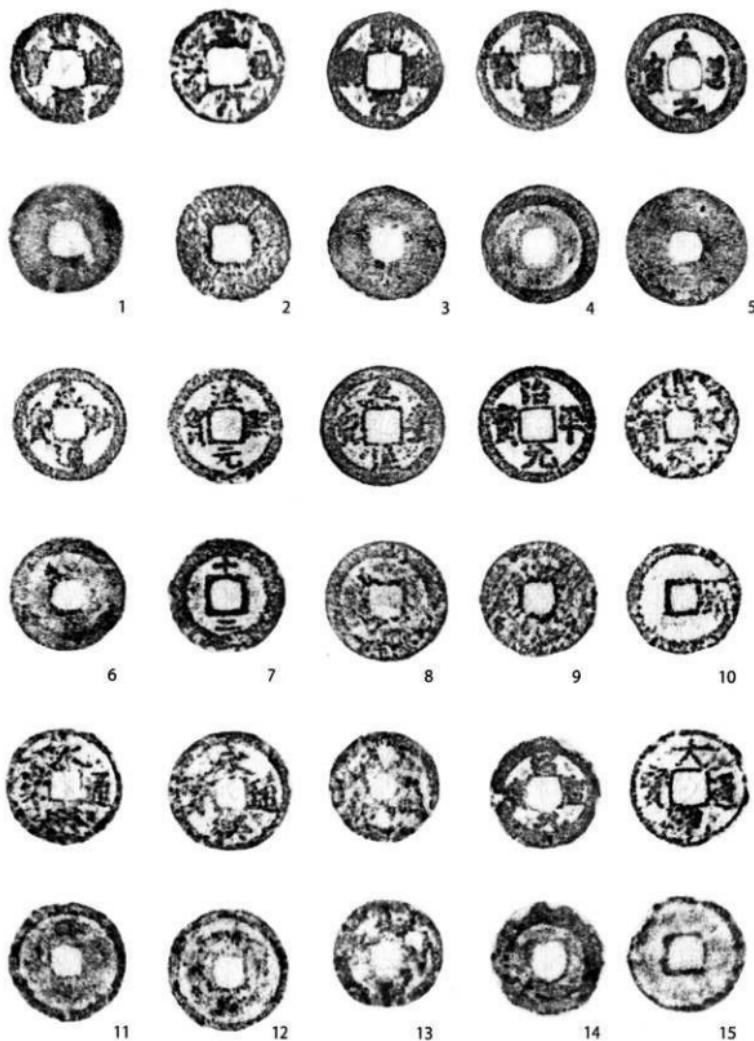
第16図 出土遺物 (158～174 : E-3 グリッド、175～179 : F-2 グリッド)



第17図 出土遺物 (180～187 : F-2 グリッド)



第18図 出土遺物 (188:F-2 グリッド、189~197:F-3 グリッド、
198~203:表採)



0 (1:1) 3cm

第19図 出土遺物（錢貨）
 (1:C-4 グリッド、2～8：C-5 グリッド、9～13：F-2 グリッド、14～15：表採)

第5章 総括

第1節 調査成果について

溝状遺構

溝状遺構の各トレンチ7層断面において、砂・礫を多量に含む層が確認できた。砂・礫を多量に含む層は、遺構底面から3～6層に亘って堆積しており、時期的に幅をもつ流路であった可能性が推定できる。調査区の南側には湧水量の豊富な林宝山（菊花山）があり、湧水が流れた流路であると推察できるが、遺物が多量に出土しているため、単なる自然流路というよりも遺物の廃棄場所であった流路という性格が考えられる。

土坑

土坑は合計で11基検出された。

検出された土坑からは出土遺物がなく、時期・性格の決定は難しいが、溝状遺構を切って構築されているため、遡っても平安時代以降から現代のものと考えるのが妥当である。

墨書き器・刻書き器

溝状遺構から出土した上器の中に、「奉」を簡略化した文字を記した墨書き器が2点と、「田戸内」、「内」という文字を刻んだ刻書き器がある。「田戸内」は土器焼成前に書かれており、国立歴史民俗博物館の平川南氏によると、「田」の書き順が正しい書き順となっているため、ある程度文字に関する知識を持った人物の手書きであり、人名とするよりは地名としたほうが妥当であるというご教示を得た。「内」の刻書き器は焼成後に刻書きされたものであり、残存率が低いため「内」の前に文字が書かれていたかどうかは不明である。

平川氏によると「田戸内」については、発音が「タコウチ」と読むことができる可能性があるという。「タコウチ」と発音する場合、大月市初狩町下初狩に「タコウチ」の音のみが残されている字名があり、その関連が注目される。

検出遺構および遺物について

溝状遺構からは、古墳時代後期から奈良・平安時代の遺物が出土しており、8世紀後半から9世紀前半に比定される時期の遺物が主体となっているが、まとまりとしては、6世紀後半から7世紀半ば、8世紀前半、8世紀後半から9世紀前半の3時期が確認できる。

調査地点は遺物の出土は認められるものの、住居等は確認されなかつた。このため居住以外の用途が推定される地点である。付近に所在し、一部ではあるが時期的に並行関係にある大月遺跡との有機的な関係が考えられる。

献上地遺跡を大月遺跡との関連で捉えた場合、第6次調査で確認された大型掘立柱建物群とそれを取り囲む二条の溝状遺構（長沢・高橋1995）との関係把握が必要となる。

遺跡の概略を示すと、大月遺跡は、桂川・笛子川の合流地点付近に位置し、付近に「追分」の地名があり、郡内地方でも南部方面と国中地方方面への分かれ道となっている地点に所在している。古代における郡内地方は都留郡とされ、『和名類聚抄』の国郡部によると、相模・古郡・都留・福地・征茂・多良・加美の7つの郷が置かれていたとされている。このうち大月遺跡周辺は征茂郷に比定されている（磯貝1978・坂本1983）。都留郡家所在地については諸説あるが、初期の郡家については古郡郷に所在していたということはおおかた一致している。大月遺跡で確認されている大型掘立柱建物群と二条の溝状遺構がセットとなるならば、郡衙的遺構であるとの解釈もできるが、それを裏付ける遺物は現在のところ確認されていないようである。また、大月遺跡周辺が征茂郷に比定できる可能性が高い以上、都留郡家所在地とすることはできないであろう。しかしながら、郡内地方の南部方面、東部方面と国中地方方面とのアクセスが容易な地域であるということ、古郡郷から移転した郡家の所在地が現在のところ不明確であるということを加味すると、今後郡衙遺構である可能性も視野に入れて検討する必要があると考える。献上地遺跡で確認された溝状遺構は居住以外の用途が考えられるため、こうした検討を重ねた上で位置づけていく必要があろう。

参考文献

- 磯貝正義 1978 「律令時代盛期の甲斐と大月」『大月市史』通史編 大月市
坂本美夫 1983 「甲斐の郡（譯）郷制」『研究紀要』1 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
長沢宏昌・高橋みゆき 1995 『年報』11 山梨県埋蔵文化財センター

第2表 遺構データ一覧

| 遺構名 | 図版番号 | 位置 グリッド | 平面形状 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 時期 | 備考 |
|-------|------|---|------|------------|------------|----|----------|
| 1号土坑 | 第4図 | G-3 | 円形 | 165 | 155 | — | |
| 2号土坑 | 第4図 | F-3 | 円形 | 165 | 161 | — | |
| 3号土坑a | 第4図 | F-3、E-3 | 円形 | 137 | 134 | — | |
| 3号土坑b | 第4図 | F-3、E-3 | 円形 | 135 | 92 | — | |
| 4号土坑 | 第4図 | C-5、D-5 | — | 400 | — | — | |
| 5号土坑 | 第4図 | C-3 | 円形 | 106 | 103 | — | 断面形はやや袋状 |
| 6号土坑a | 第5図 | E-3.4 | 長方形 | 105 | 75 | — | |
| 6号土坑b | 第5図 | E-3.4 | 円形 | 140 | 133 | — | |
| 7号土坑 | 第5図 | D-3、E-3 | 円形 | 154 | 148 | — | |
| 8号土坑 | 第5図 | F-2 | 円形 | 128 | 126 | — | |
| 9号土坑 | 第5図 | G-2 | 円形 | 119 | 112 | — | |
| 不明遺構 | 第5図 | F-3 | 長方形 | 152 | 39 | 近代 | |
| 溝状遺構 | 第6図 | B-4.5、C-3.4.5、D-3.4、E-2.3.4、F-2.3、G-2.3 | — | 長さ(m) | 幅(m) | 平安 | |
| | | | | 51.2 | 11.1~8.6 | | |

第3表 遺物観察表

写 真 図 版

図版1 調査区全景



図版2 遺構写真



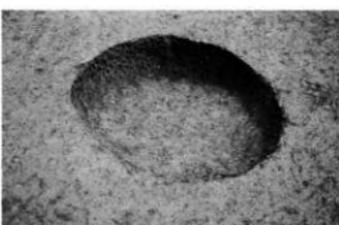
1号土坑遺構プラン



1号土坑完掘



2号土坑遺構プラン



2号土坑完掘



3号土坑遺構プラン

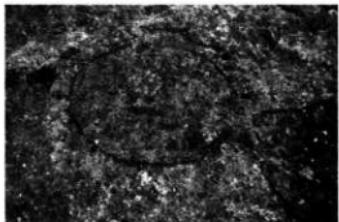


3号土坑完掘

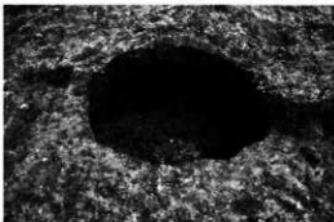


4号土坑遺構プラン

図版3 遺構写真



5号土坑遺構プラン



5号土坑完掘



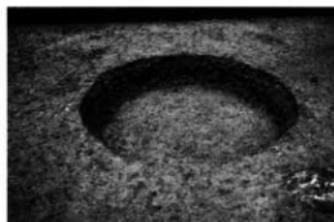
6号土坑遺構プラン



6号土坑完掘



7号土坑遺構プラン



7号土坑完掘



8号土坑遺構プラン



8号土坑完掘

図版4 遺構写真



9号土坑遺構プラン



9号土坑完掘



不明遺構半裁状況



不明遺構完掘



溝状遺構

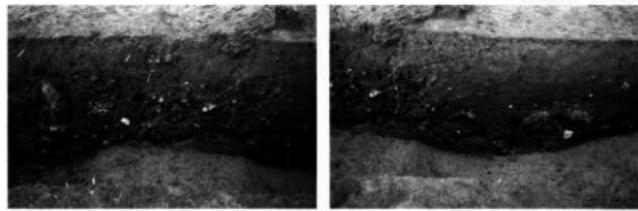


溝状遺構

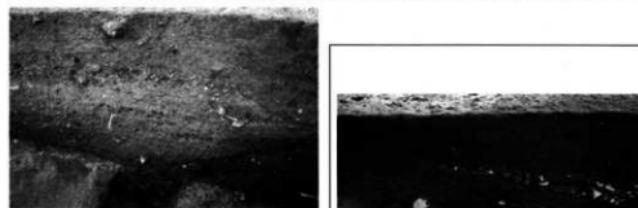
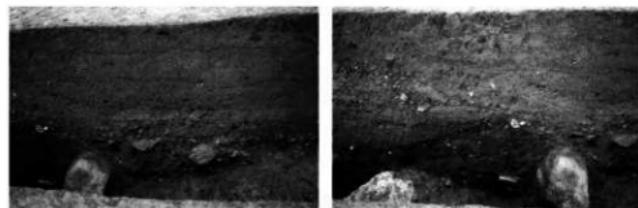


遺物出土状況

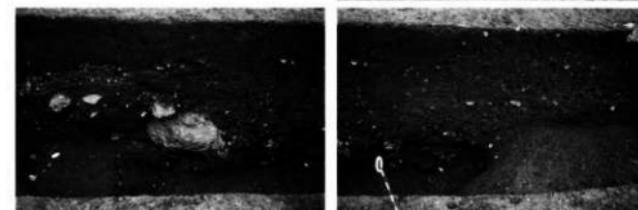
図版5 遺構写真



1 トレンチ土層断面（西から）

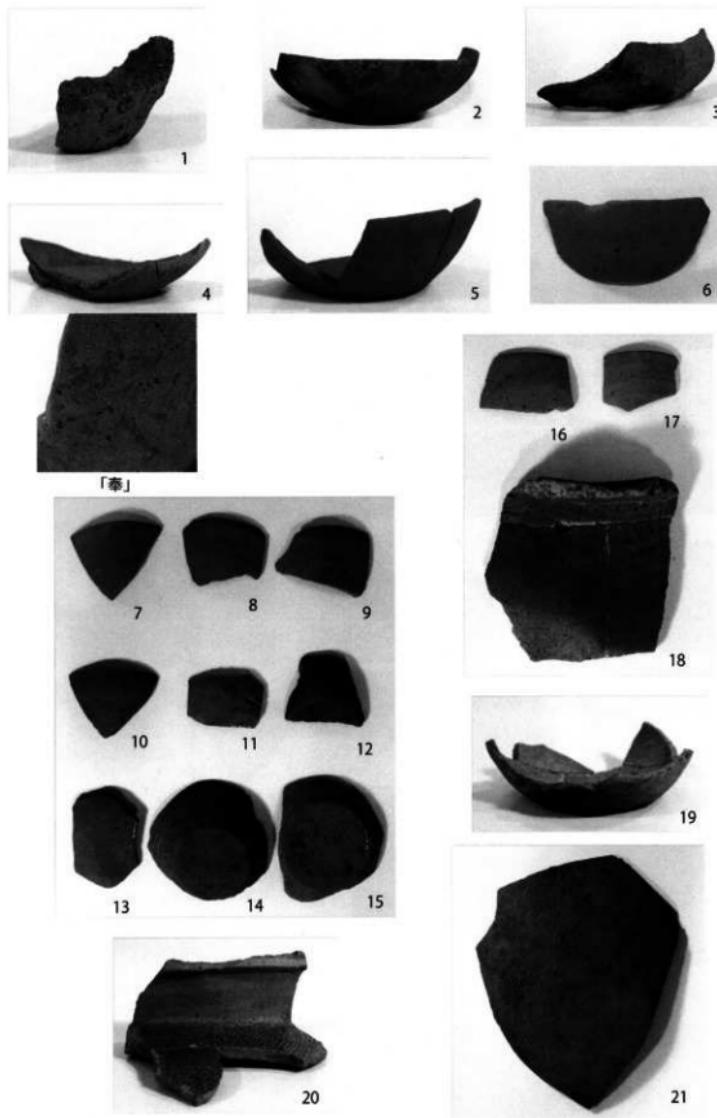


2 トレンチ土層断面（西から）

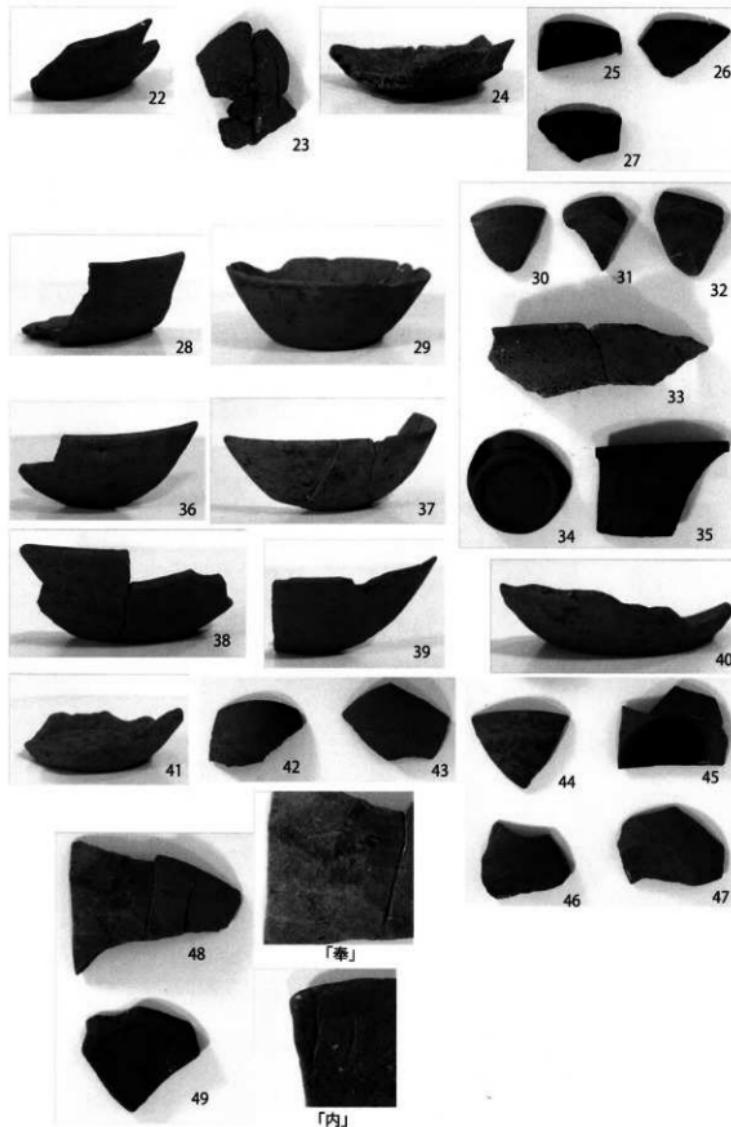


3 トレンチ土層断面（東から）

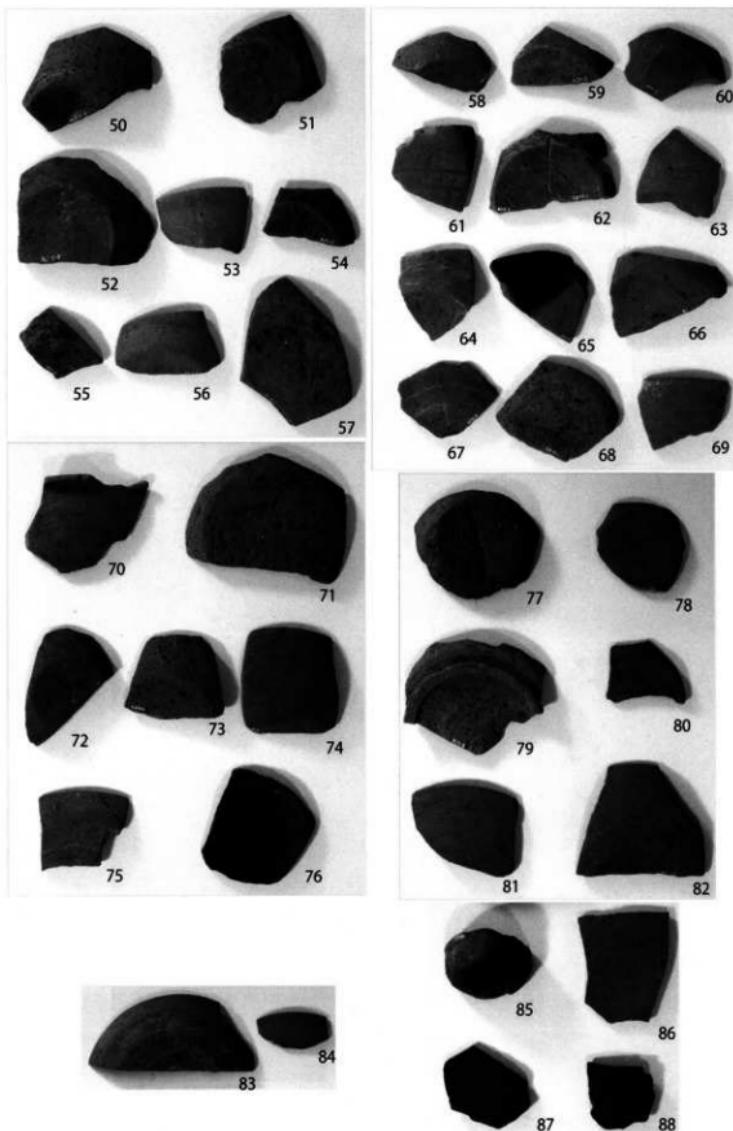
図版6 Bグリッド出土遺物



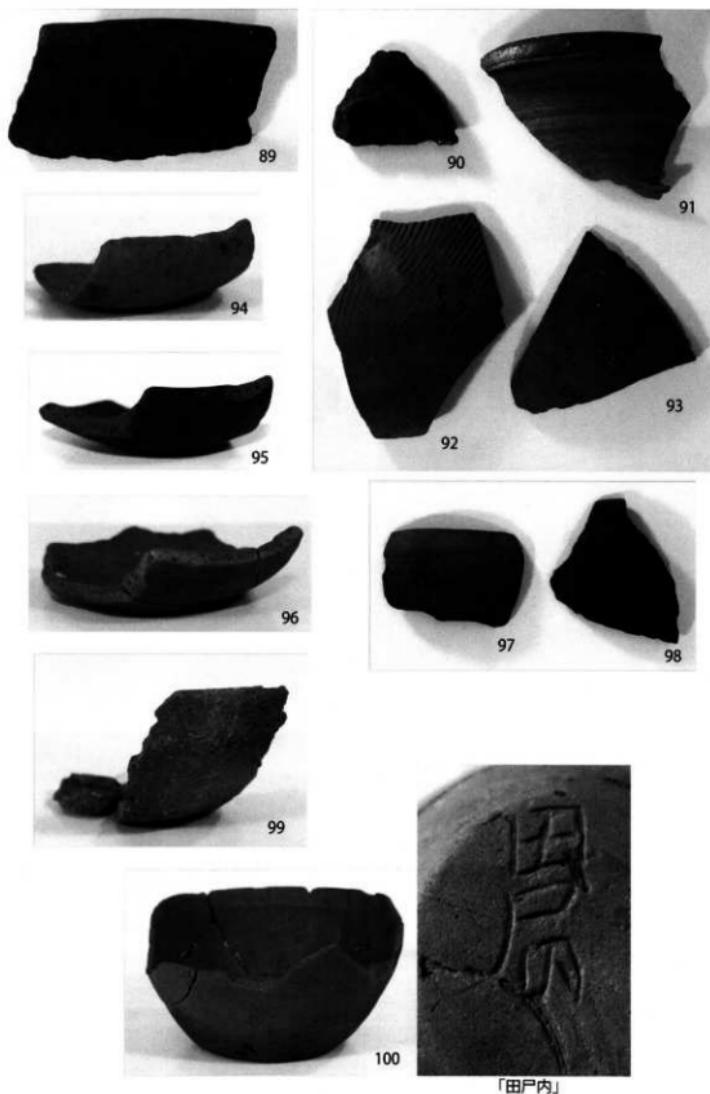
図版7 Cグリッド出土遺物



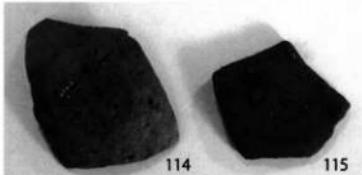
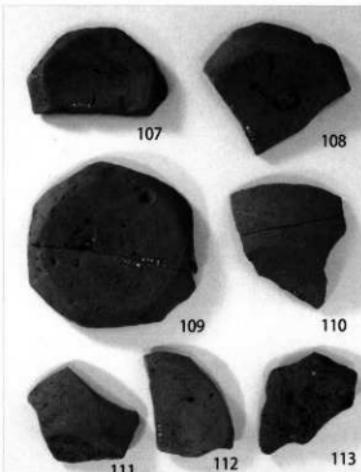
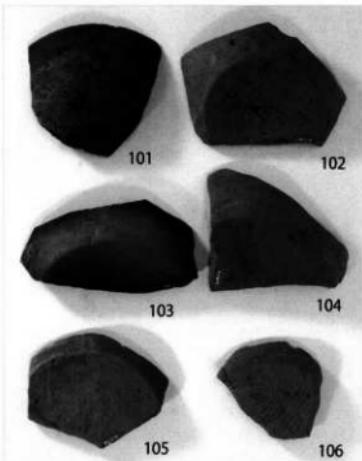
図版8 Cグリッド出土遺物



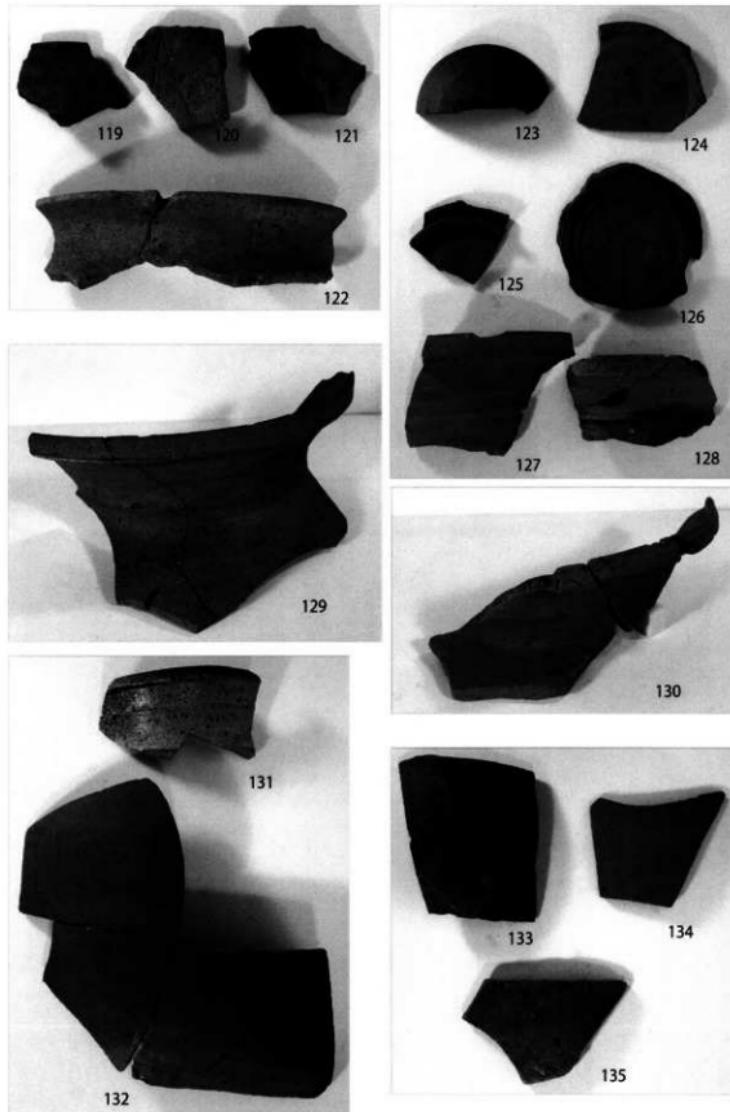
図版9 Dグリッド出土遺物



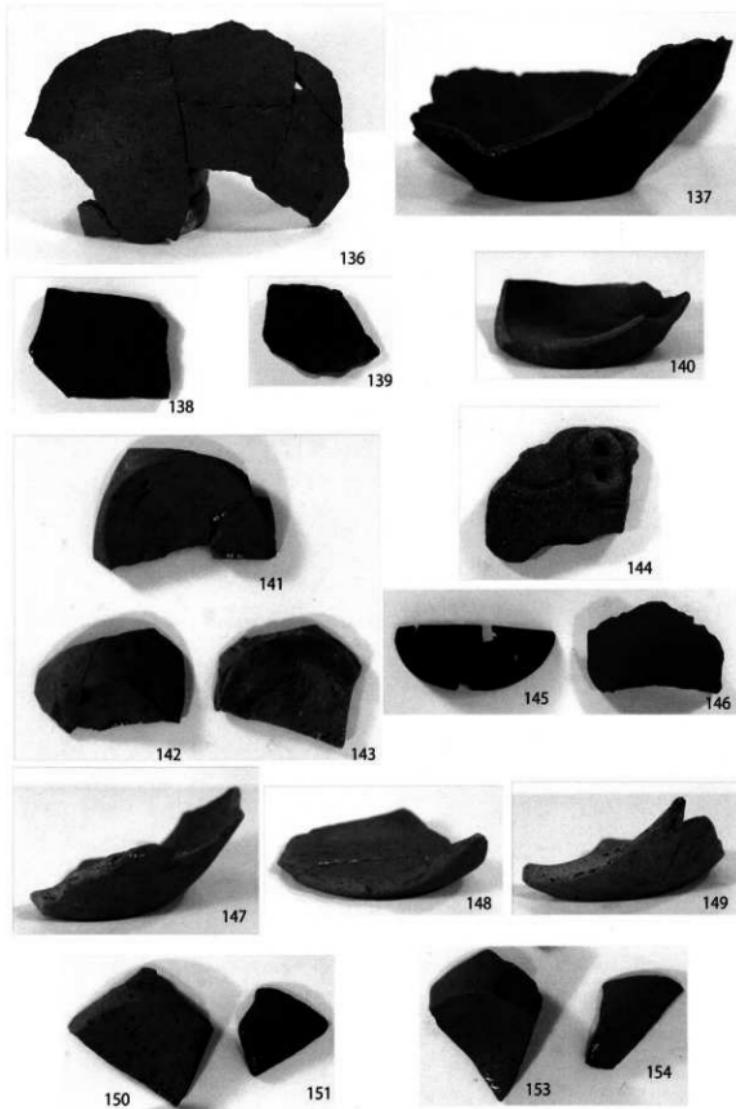
図版 10 D グリッド出土遺物



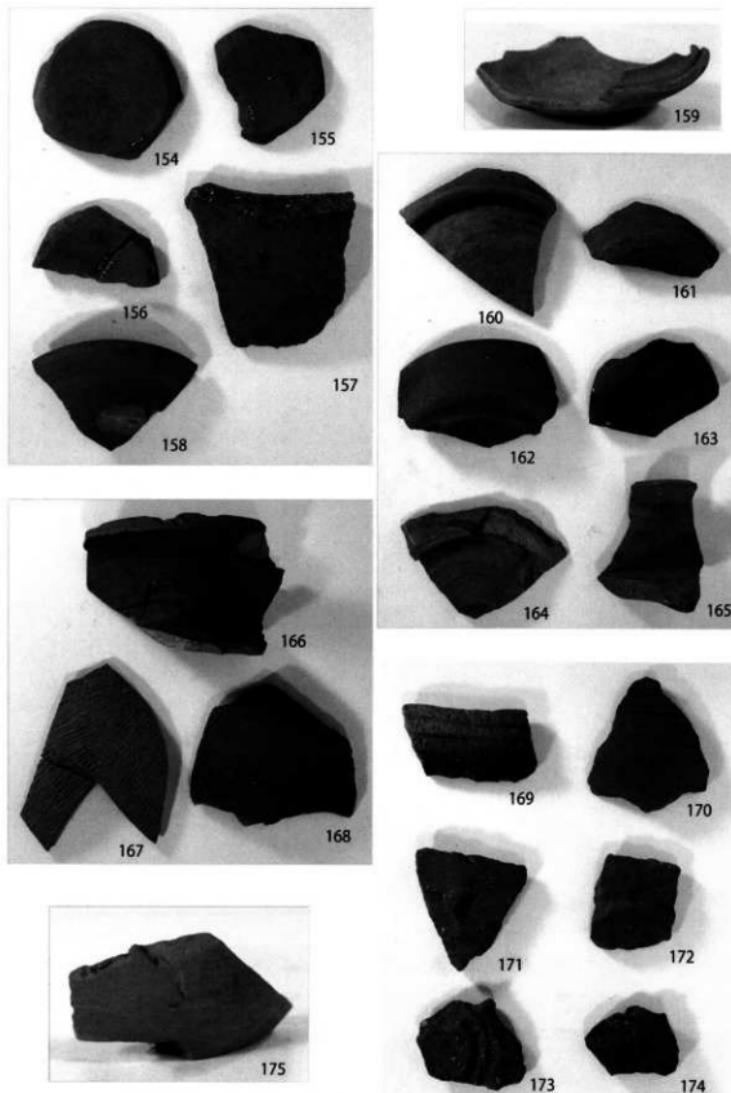
図版 11 D グリッド出土遺物



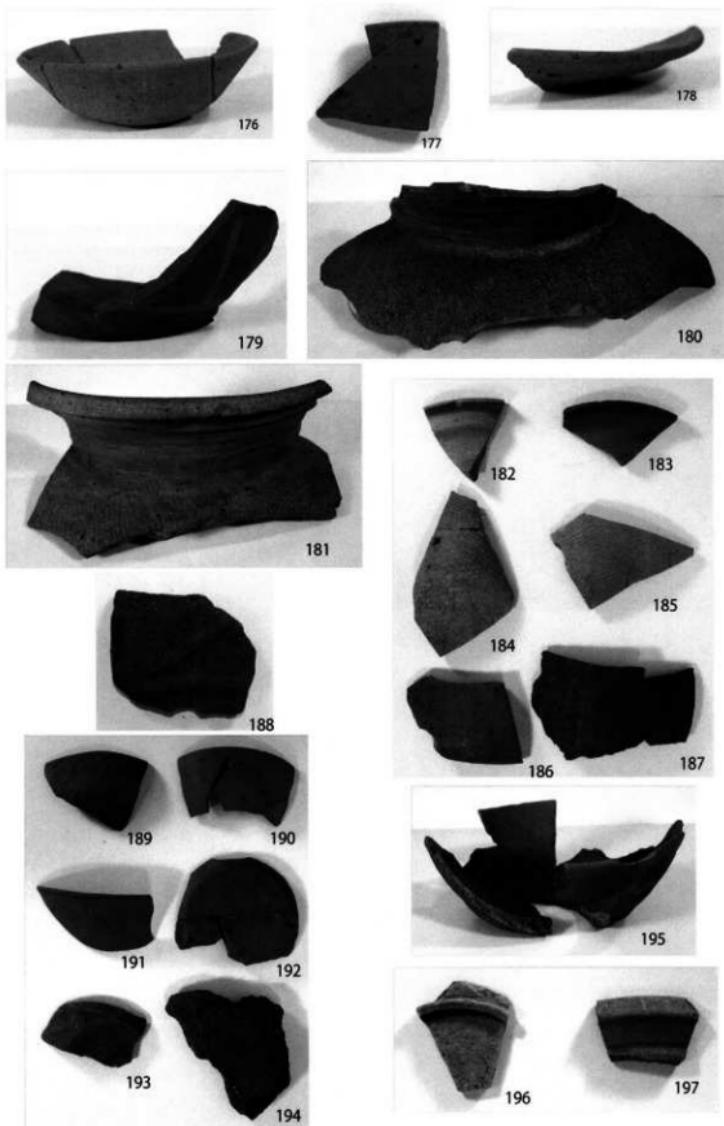
図版 12 D・E グリッド出土遺物



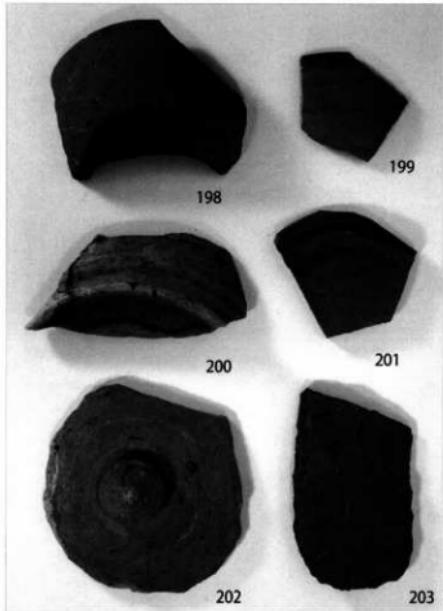
図版 13 E・F グリッド出土遺物



図版 14 F グリッド出土遺物



図版 15 表採・特殊遺物



献上地遺跡

一般国道20号(大月バイパス)改築工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

1996年3月28日発行

編集 大月市教育委員会
TEL 0554-23-1511
発行 大月市教育委員会
印刷 様大月プリント

